五二新聞

09.2.No141
発行 市岡日出夫
0883-88-5292

雪の祖谷渓

二月の声を聞こえて来ると陽の光もぐ〜んとやわらかく感じてきました。早くも福寿草の花が咲きはじめてる場所もみられるようになりました。四日には紋黄蝶もヒラヒラと、今年はじめての舞を見せてくれました。

季節の言い伝えの様に雪の量は少ないし、春雪や里雪のように水分を多量に含んだ雪で、とけるのも早いようで降った割には積雪は40〜50cmが平均でした。

これで、カマキリの赤ちゃんも多く生まれることでしょう。

冬も面白いけれど…

雪を見れば「冬眠」と自覚しているから、テレビや本を読む機会(自々)が多かった一月。大変、よい勉強をさせてもらいました。

鳥取・智頭町の地域再生にむけた「百人委員会」のとりくみ、寺谷町長のアイデアでようが、この町長を選んだ町民の意識が百人委員会の熱気にあらわれているのだと感じました。

また、山口放送局制作の「山で最期を迎えたい」十七年間のドキュメンタリー。生きるということの意味、人生というものを強く教えられました。おじいちゃんの風呂の様子とか、おばあちゃんの楽しそうで、いきいきした笑顔。「おじいさ〜ん」という呼び声が残像として今でも何かを語ってくれます。

小さい事とか、田舎とか、人がいないという事がマイナスとして言われる事が多い中、世界遺産の小さな村のことも、多くの事を感じました。たった45しかない木の手作りの家々、その三分の一が空家となっている(記憶があってれば)村の暮らし。人々が助けあって生きている。勝ち組だとか負け組だとか区別、選別して、人の生き方を、お金をいっぱい稼ぐことが大切だとも言はやしてるどこかの国とは大違いです。そこに暮らしている人々が、何を求めて幸せに暮らしているかが、どれだけ豊かに生きていけるのかを示している。ブータンという国の事も大いに、国造り"政治"ということの心をあらめていると考えさせられました。

堀切大師
ミニ八十八
柳の峰

冬というモノトーンの世界の中で熱い!明るいカラーの世界をみることが出来ました。

雪の中を歩くと、動物の足あとがいっぱいあります。

一番多いのが鹿と猪です。時には、小鳥の小さな跡、タヌキやウサギを見られたり、ツララの大きいもあったりと、それなりに楽しみはあります。

楽しみとあれば苦労する事も。

左の写真の様に県道が崩落し、東祖谷山村の中心への道が通行出来なくなり、一時間もかけて雪道を迂回さこんな大きな出来事もありましたが、冬眠していると、面白いお話も耳に入らないし、夢をかけられても、足が動きませんでした。

一月二十四〜二十五日には、国際雪合戦四国大会、いやこの温泉郷で開催され、地元「カニクイ隊」が、二回目のチャンピオンになり北海道に行く事を知ったのもTELという真冬の熱戦で。

でも、いい勉強になった二月でした。〜もう目覚めだ!!

1月、道路が崩落は知りません。